



特定非営利活動法人
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2008年度事業報告書

◆FTCJ事務局◆

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル3F

TEL&FAX:03-3835-0221

Email:info@ftcj.com

URL:http://www.ftcj.com

2008 年度事業報告書

2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日まで

1. 2008 年度事業を実施して

モンゴルでの支援事業をスタートしました。日本では 9 月から事務局の専従スタッフ 1 名をおくようになりました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ) は活動 9 年目を迎え海外自立支援事業において「モンゴル」にて活動をスタートさせました。内容は貧困地域での図書館設置運営事業です。この図書館建設のためにご協力くださったみなさん、本当にありがとうございました。また、フィリピンのミンダナオ島で紛争の影響を受けるなどしているイスラム教徒の人々が多く住む貧困地域への支援事業も始めるかどうか調査を開始しました。そして、FTC インターナショナル(カナダ)との連携強化のためカナダを訪問し、話し合いや交流を持ちました。今後一緒にインドでの貧困農村地域支援を実施できるよう計画しています。

国内においては、事務局事業体制の変更がありました。事務局長の中島早苗が 4 年間いた関西を離れ、08 年 9 月から東京に移動したことで、東京での事務局と事業実施強化をはかるために、専従スタッフとして活動することになりました。また関西での活動の基盤強化のために「関西連絡所」の引き継ぎの設置を行うことになりました。

子どもやユース(大学生)メンバー主導による積極的な活動もいくつか実施されました。一つは「アクションキッズ」の発足です。これは演劇などのパフォーマンスによって児童労働問題を伝えていくチームです。もう一つは「キッズパワーキャンペーン」で、高校生メンバーの企画・準備・運営によるもので、児童労働を伝え、貧困の中にいる子どもを支援するための子どもによる取り組みです。二つの活動ともに 2009 年度にもつながって実施される予定です。

会計基盤の強化のため前年度から導入した NPO 法人用会計ソフトによって、今までよりも迅速に会計処理ができるようになりましたが、その他の事務局管理のための管理業務とそれに係る人件費確保が今後の課題であり、必須事項です。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 子ども主体事業

事業担当者: 子ども代表委員 / チームメンバー: 鈴木美都(高 3)、原口華奈(高 1)、安増千絵(高 2)

事業内容: 子ども代表委員の企画による事業活動

◆事業の目的と役割 と 活動内容

- ・全国の子どもメンバーの活発な活動を目指し、情報交換や共有、意見交換の場をつくる。
→そのために①全国のメンバーが集い交流する「子どもサミット」を実施する計画をたてました。

1 年間をふりかえって

①2008 年の活動について

今年度は子どもサミット開催に向けて、夏ごろから大まかな計画をたてていました。しかし代表委員のスケジュールや予算の問題もあり、その後うまく形にできないまま今年度が終わってしまいました。

②反省点

- ・子ども代表委員のスケジュールがお互いに合わないと計画をたてるのが厳しい
- ・人を集める魅力的な計画が今の予算では難しい
- ・人を集めることが出来ないイベントなので、夏キャンプに子ども代表委員が出向 してもいいのでは？
- ・子ども代表委員の資格をもう少し厳しくしたらどうか？

→支部長/事業リーダー連合的なものにするなど、活動がしっかり行え、組織でも中心的な人のあつまり+αの方が子ども代表委員の活動が機能するのでは？

③今後について

転居に伴い原口(華)が活動を休止するので集まっての引継ぎは難しい。

→組織を見直すチャンスでもあるのでは？

子ども代表委員のやる事が子どもメンバーに繋がらないとモチベーションが下がってしまい、1 年が無駄に過ぎてしまうので、子ども代表委員は各地方と関わりのある人の方が望ましいと考えられる。広報との関わりは持つことができたので、少ない機会でも自分たちから情報を発信できたのは良かった。

以上 文責:原口華奈

(2) 子ども活動応援事業

事業リーダー：永野恵理(社会人)

他チームメンバー：6人

事業内容：子ども活動家育成、プログラム開発、夏キャンプサポート

チームメンバー：遠藤恵子(社会人)、佐藤美紗子(大学4年)、西垣春奈(社会人)、町井望(社会人)、中島早苗(社会人)、原口直敏(社会人)

事業の目的と役割

- 1) 国内の子どもが、世界各地の開発途上国を中心として児童労働など苛酷な状況に置かれている子どもの支援の企画・実行及び交流などを主体的に行えるように育成する。
 - 2) 国内外の平和と子どもの権利の擁護を求め、子ども参画を果たすための子どもによる活動のサポートを行う。
- そのために本年度は、夏キャンプ IN 熊本のサポート、FTCJ アカデミーを開催し、リーダーシップトレーニングを実施

第8回 夏キャンプ'07 in 熊本

報告：永野恵理

日時(期間) 場所(実施場所)	担当者とその人数	対象者(参加者)と人数	事業費 (千円)	評価 (5段階)
7月29日(火)~31日(木) 熊本県あしきた青少年の家	●企画運営 熊本支部 6名 [名前・学年・キャンプでの役割] ・坂田琴美 高2・リーダー・司会進行 ・牛島美香 社会人・岩坂省吾 社会人 ・津田美矩 社会人・谷方秀美 大学生 ・中山天野人 社会人 ●事務局 4名 サポート総括：永野恵理、サポート：露久保雅樹、田中大勇、西垣春奈	参加者：7名(8~18歳) ・小学校3年生1人 ・小学校4年生3人 ・高校1年生2人 ・高校3年生1人 ・その他保護者2名	支出： 158	☆☆☆ ☆

<目的>

- ①実施チームが、夏キャンプを主催する中で成長し、次回からの活動につなげる。
- ②参加者が世界の貧困や児童労働問題、子どもの権利について理解を深める。何ができるかを考える機会とする。

<活動内容・プログラム>

・世界の子どもの現状学習プログラム ・リーダーシップトレーニング(スタイル分析、モチベーション曲線、夢たまご、アクションプラン作成)・開発教育ワーク(児童労働ゲーム、子どもの権利条約ワーク) ・Cocco のごみゼロ大作戦のDVD観賞・お楽しみ交流プログラム 海水浴・熊本オリジナルプログラム(情報シェアワーク) など

<FTCJ 熊本支部長 坂田琴美 感想>

“自分のやりたいことってなんだろう?” そんな単純な問いかけの答えを探したことはありますか? それを考えるきっかけ作りをしたいと思ったのが私たちのはじまりでした。今年の夏キャンプの準備をしていく中で私たちはいくつもの壁にぶつかりました。今までやったことのない作業、チーム内での衝突など様々な困難に、時には諦めようとしたことも何度もありました。それでも熊本支部チームで支え合い、力を合わせ、たくさんの人の力を借りて、無事終わりを迎えることが出来ました。“高校生だから”という甘えを一切捨てようとしても、自分の許容範囲を超えてしまう所が多く、サポーターに頼ることになってしまい、自分の未熟さやサポーターの力強さを肌で実感しました。“もっともっと”と思う気持ちが私たちをより高い目標へと運んでくれ、よりしっかりとした目的への達成へ導いてくれました。沢山の反省はありますが、FTCJ 夏キャンプを熊本で、熊本支部チームでやれたことに達成感を感じています。FTCJ 夏キャンプをやるにあたって、参加して下さった皆さん、ずっと応援し続けて下さった皆さんそして一緒に頑張ってきた熊本支部の夏キャンプチームに“ありがとう”を込めて。

<07年、08年の夏キャンプ実施サポートを経て感想 永野恵理>

1. 主催でイベントを執り行うことで、関わったメンバーの成長が大きい。
2. どの支部も共通して会計に関する知識が少ないので、あらかじめ会計に関する講座を開くなどサポートが大切。
3. 事務局、支部の役割分担を明確にすることが重要。
4. チームにおいて、役割分担を明確にすること。それが、企画運営の進行を左右する。

【熊本支部の場合】事務局とサポーター両方から違う意見でサポートされたのでは、実施のメンバーが混乱することを配慮し、サポーターの1名に私(事務局)から連絡し、子どもメンバーへの窓口を1本化する工夫をした。サポーターと連絡をとればよいので、その点は楽であった。ただ、実際にメンバーと連絡をとっていないことで、熊本支部のメンバーが事務局と協働しての事業という意味合いが薄れたと思われる。当日まで全メンバーの進行状況を、私自身が把握しないで行った(各自と連絡をとらないので各自の把握をしなくてよかったので、これは私にとっては大変楽なことではあったが、振り返れば子どもメンバーの育成としては怠慢だったように思う。)

●引き継ぎ会について

08年から09年の引継ぎは、子どもサミットを利用して東京で行われた。広島支部長と熊本支部長の2名のみの引き継ぎ会となった。熊本支部のメンバーが他支部や、社会と関わるチャンスが少なかったことが反省点である。また、引継ぎで熊本支部に手渡された今までの歴代の夏キャンプの資料が、熊本支部の夏キャンプが終わるまで他メンバーが存在を知らなかったということが後からわかった。今後、引き継ぎ会のあり方も確認が必要。

【写真で見る熊本夏キャンプの様子】

小学生も熱心にLTプログラムをうける。

海で楽しむ！！リフレッシュ

小2と高校生の協働。



子ども育成/プログラム開発 報告:中島早苗
FTCJ アカデミー ～活動へのステップを学ぼう～

日時(期間) 場所(実施場所)	タイトル・担当(スタッフ5名)	対象者(参加者)と人数	支出額 (千円)	評価 (五段階)
2008年11月9日(日) 10時～17時 会場:渋谷(株シェイク)	第1回:「自分のコトバで伝えよう！」 スピーチをするときのコツを講師を招いて学びます。(講師:佐光紀子)	参加者数:12人 (小学生2人、高校生4人、大学生4人、おとな2人)	9.6	☆☆☆☆
2008年12月14日(日) 10時～16時 会場:渋谷(株シェイク)	第2回:「アクションプランを作ろう！」 活動するための事業計画をたてます。 &交流会	参加者数:6人 (高校生4人、大学生1人、大学院生1人)		☆☆☆
2009年2月11日(祝) 10時～17時 会場:渋谷(株シェイク)	第3回:「子ども活動のちょっとしたコツ」 活動を実施する時の秘訣を学びます。	参加者数:7人 (小学生1人、高校生3人、大学生2人、おとな1人)		☆☆☆

<目的>

参加者がより良い世界を創るために「本当にやりたいこと」、「やるべきこと」を発見する。そして、「自分に何ができるの?」、「何をすれば良いかわからない!」などの悩みを楽しみながら考え解決していき、問題に取り組むためのその日からのアクションプランを立て、実行に移していくヒントを得る。

<プログラム開発としての内容>

連続講座で学べるリーダーシップトレーニングのプログラムの内容づくりと教材開発・作成を実施。

<プログラム内容>

アイスブレイキング、世界の貧富の格差を学ぶためのゲーム、児童労働シミュレーションカードゲーム、スピーチのコツ、グループで活動する時のコツ、映像で学ぶ世界の現状、その他参加型ワークショップ、発表、意見交換など。

<ふりかえり>

今回プログラム内容についてチーム内でかなり話し合い改善できたので、今後の継続的な実施を実現していきたい。反省点は参加者が少ないこと。いかに魅力的なプログラムだと伝えていか、広報に力を注いでいきたい。

子ども活動応援「ボランティアガイド
BOOK」制作・普及事業

日時(期間) 場所(実施場所)	担当者とその人数 ◆内容	対象者(参加者) と人数	事業費 (千円)	評価 (5段階)
2008年8月～3月 東京事務所において制作 助成:公益信託有志ボランティア 基金	チームメンバー6人(遠藤、佐藤、西垣、 原口、町井、中島) ◆国際協力に関心がある子どもが活動の 一歩を踏み出せるための冊子(46ページ 全カラー)を2000冊印刷し普及	会員の子ども250 人と国際協力活動 に関心のある子ど もたち	支出: 545	☆☆☆ ☆☆

(3) 外部ネットワーク事業

事業リーダー : 伴野保志(社会人)

チームメンバー : 西郷和将(JYG8、G8NGO ネットワーク担当)、中島早苗(日比ネットワーク)、茶円愛子・溝越裕子(関西)

事業の目的と役割: 様々なセクター、組織とつながってネットワークを構築、協働し FTCJ のビジョン、ゴールを実現することを旨とする事業です。

<2008 年度参加・構築したネットワーク>

- ・ JNNE(教育協力 NGO ネットワーク): 開発途上国の子どもへの教育支援を行っている NGO によるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施しています。また、外務省との意見交換や政策提言なども行います。
- ・ 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン: 世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し、世界の EFA(万人のための教育)運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動をしています。JNNE 加盟団体や日本教職員組合 7 組織で実行委員を構成し、実施しています。FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 児童労働ネットワーク(CL ネット): 児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを行っています。児童労働問題に取り組む NGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されており、その中から運営委員を選出し設置しています。FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 日比 NGO ネットワーク: フィリピンでの開発支援活動を行う日本の NGO とフィリピンの NGO によるネットワーク。フォーラムや外務省との懇談会、団体間での情報交換を実施しています。
- ・ G8NGO フォーラム: 2008 年夏に日本で開催された「主要国首脳会議」(G8 サミット)に向けてのキャンペーン。持続可能な社会の実現を目指して環境、平和、人権、世界の貧困問題の解決と開発などの地球規模課題に取り組んでいる NGO が本年度サミットに向けて結成されたネットワーク。※FTCJ は「貧困・開発」「人権・平和」のユニットに所属。
- ・ Japan Youth G8 Project(JYG8): 2008 年7月に北海道の洞爺湖で開催された G8 サミットを機会に青年の活動分野と地域を越えて連携をし、日本の青年の声を高めていくプロジェクトで最終的には分野と地域を越えた青年の活動のプラットフォームになることを目指す。
- ・ ワン・ワールド・フェスティバル(OWF): 関西で国際協力や交流事業を行う組織を中心に運営される地球規模の課題についての情報提供や、国際協力活動に参加する機会・意義を提供するために行われるイベント。FTCJ は実行委員として参加。
- ・ その他非営利組織への会員登録
よりよい事業の運営のため JANIC、関西国際交流協議会、DEAR の団体会員登録を行いました。その他、労働組合(NTT 労組)や企業、他団体、関西で活動する組織とつながってイベントへの参加協力を行いました。

<ネットワーク構築事業による活動一覧>

ネットワーク名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	参加対象者の範囲・人数	支出額(千円)
JNNE	JNNE からの情報を事業担当者や会員へ提供	通年	-	2 人	会員全体	5
世界中の子どもに教育をキャンペーン	講師派遣、ロビイング活動など	主に 4 月	中学校 1 校、小学校 1 校	7 人	600 人	5
	4 月 23 日 FTI メンバーやアグネスチャンさんらの参加による「世界一大きな授業」を実施。世界で 750 万人以上が参加してギネス記録の更新をした。その他日本全国で 214 校 25,838 人が参加した。	4/3~15	本郷台中学校 他 214 校参加	1 人	25,838 人	1
CL ネット	児童労働に関するメインイベント「児童労働、農業、貧困～インド、そして世界の子どもたちは～」と児童労働反対世界デーウォーク(渋谷・表参道)の準備、広報、運営	6/8	UN ハウス 3 階 国際会議場/ 渋谷・表参道	25 人	500 人	5
	大阪・御堂筋での児童労働学習会とウォークを企画、準備、運営を実施(共催:シーライツ)	6/9	大阪聖パウロ教会・御堂筋	4 人	80 人	25

ネットワーク名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	参加対象者の範囲・人数	支出額(千円)
日比 NGO ネットワーク	第二回日比 NGO シンポジウム開催(7/17~19)とその後のフォローアップの実施。日比 NGO シンポジウムでは FTCJ のパートナー団体の プレダ 基金 から 共同代表の Alex Hermoso 氏を招へいし交流会も実施。	通年	東京	5 人	360 人	60
	プレダ基金から共同代表の Alex Hermoso 氏による講演会(共催:グローバル・ヴィレッジ)	7/16	東京(ピープルツリーショップ)	4 人	30 人	5
G8NGO フォーラム	①貧困開発・環境・人権平和の 3 つのユニットのうち FTCJ は「貧困・開発」「人権・平和」に参加。		東京	2 人	—	15
	②政策提言活動:世界の市民社会との連携し、地球規模の課題について日本政府と G8 各国政府に対し提言と働きかけへの参加。具体的には「ポジション・ペーパー」を作成、政府機関(外務省、環境省等)や国会議員との会合、各 G8 大臣会合に対応した働きかけ、各種シンポジウムや勉強会の開催。また 2008 年 4 月 23~24 日の 2 日間で「Civil G8 対話」(世界各国の NGO を招待した国際会議と G8 諸国のシェルパとの政策対話)という非公式の国際会議の開催。	4 月~9 月	東京、京都、北海道など	2 人	—	
	③キャンペーン活動 市民を巻き込んだ政府への働きかけ:具体的には「100 万人のたんざくアクション」を通じて、市民が地球規模の課題を知り、行動を起こしてもらうための意識啓発と意見表明の機会提供。	6 月~9 月	全国	2 人	国内では 10 万人がアクションに参加	
	④市民サミット(オルタナティブサミット)の開催への協力。FTCJ はワークショップ主催せず、広報協力を行った。	7/4~7	北海道	1 人	—	
JYG8	「持続可能な社会のための世界青年サミット(WYF)」の開催:海外と日本の青年が 150 名近く参加し FTCJ からは高校生 2 人が出席。G8NGO フォーラムの各ユニット代表者がゲスト講演を実施した。	6/27~30	横浜市三ツ沢公園 青少年野外活動センター	2 人	2 人	—
OWF	大阪での国際協力のおまつり「ワン・ワールド・フェスティバル」に向けての実行委員として企画・準備話し合い参加	6 月以降	大阪市内	2 人	会員全体(特に関西会員)	84
	ワン・ワールド・フェスティバル運営:ブース出展による活動紹介と“新感覚!楽しく学べる 2 時間のプログラムショー”の実施 【ワークショップ・プログラム内容】ナビゲーターの進行で、2 時間のプログラムショーを展開。ニュース形式で児童労働の事実を伝え、映像紙芝居で現状を知ってもらう。そして身近に感じてもらえるようゲーム形式で実践し、ディスカッションを展開。	12/20、21 プログラムは 21 日 11 時~13 時	大阪国際交流センター	10 人	出展ブース数:133(政府・ODA実施機関、国際機関、教育機関、NGO/NPO、企業) 全体の来場者合計:12300 人	

＜その他ネットワークによる活動一覧＞

NTT 労組・名古屋	児童労働撲滅キャンペーン 08in 名古屋への参加、ブース出展・活動紹介	5/17	名古屋	2人	2,000人	18
NTT 労組・横浜	児童労働撲滅キャンペーン 08in 横浜への参加、パネル展示	5/31	横浜駅前	1人	2,000人	-
NTT 労組・千葉	児童労働撲滅キャンペーン 09in 千葉への参加、ブース出展、アクションキッズパフォーマンス公演、活動紹介	3/28	千葉 (検見川浜駅前)	10人	2000人	3
丸幸ビル NGO 祭り	丸幸ビルに事務所を構える NGO で共催して事務所全体を解放し活動紹介を実施。FTCJ は来場者が参加できる「つながりマップ」の作成やプログラムを担当。	9/15	丸幸ビル (東京都台東区)	8人	250人	3

【写真で見る活動の様子】

◆児童労働反対！6月8日のウォーク(東京)の様子



◆児童労働を考える関西ウォーク(大阪)の様子



◆ワン・ワールド・フェスティバルではブースでの活動紹介(写真右下)の他、小学生メンバー～おとなまで作り上げた児童労働を伝えるプログラム(写真左下)を実施しました。



◆FTCJの事務所のビル「丸幸ビル」に入っているNGO14団体でお祭りをしました。事務所スペースで活動報告をしたり、来場者にメッセージを書いてもらうマップを作りました。



(4) アドボカシー(啓発)事業

事業リーダー: 中島早苗 チームメンバー: 15人

事業内容 : スピーカー派遣、イベント、ニュースレター、ホームページ、出版、資料開発、物販など

事業目的: 国際問題や権利を奪われた子どもを巡る現状を様々な方法で伝え、多くの人に知ってもらうことで問題解決につなげる。主に関東と関西で事業を展開しています。

事業名	内容	作業実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ニュースレター発行	NL 18号 リーダーシップトレーニング事業報告特集	9月	東京事務所	6人	各号 150部印刷	53
	NL 19号 夏キャンプ IN 熊本報告 その他活動紹介	12月				
	NL 20号 FTC カナダ訪問報告など	09年度 5月				
スピーカー派遣及び事務所訪問対応	世界の貧困、児童労働問題、紛争、子どもの権利、それに対する取り組みとして団体活動紹介のため出張講演や事務所での訪問対応を行った。学校訪問や事務所対応: 小学校 1校、中学校 8校、高校5校、大学2校、その他団体 4回合計 20	通年	東京、神奈川、埼玉、名古屋、大阪、京都、兵庫	15人	関東、関西、中部の学校や団体、一般向け施設などにて約 2000人	121
ホームページ更新・作成	新しい情報をアップ・デザインするなど随時対応。	12月以降 通年	-	2人	1日平均 350人程度アクセスあり。	管理費として報告
資料開発	開発教育教材の開発と作成 ・児童労働ゲームカード改訂 ・働く子どもシミュレーションワークショップの開発と教材作成 ・児童労働及び活動紹介パネル作成	6~3月	事務所・大阪連絡所	述べ 13人	子ども、一般	8
	フィリピンスタディツアー報告書制作	4~9月	事務所,他	14人	子ども・一般	4
出版	Take Action 出版準備→「子ども活動応援ガイドBook」への情報提供	通年	事務所、他	2人	子ども、一般	-
	Me to We 日本語版 出版準備	通年	事務所,他	5人	子ども、一般	-
物販	フェアトレード商品や出版物の紹介資料作成と仕入れ、販売	通年	事務所	4人	子ども、一般	147
イベント	【癒しフェア】ブース出展をし活動紹介、物品販売	7/26,27	東京ビックサイト	7人		18
	【グローバルフェスタ】国際協力を携わる団体、国際機関、政府機関などが集結し活動紹介を行った。	10/5,6	日比谷公園(東京)	20人	80,000人	31
	【アムネスティ千葉主催】児童労働についての話やブースでの活動紹介及び物品販売を実施。			5人	200人	4
	【関西イベント】コーヒー農園の生産者になって貧困を学ぶワークショップとモンゴルスタジアム報告会	2/	大阪 ONP	6人	15人	4
アクションキッズ	演劇などを通じて児童労働問題を伝える子どもによるパフォーマンス活動。助成: キリン福祉財団	7~3	東京・千葉	7人	200人	157

【写真で見る活動の様子】

◆グローバルフェスタで活動する高校生メンバー ◆アクションキッズメンバー(NTT労組千葉でのイベントにて)

ゴミ山で働く少女を演じる小学生メンバー



(5) 海外自立支援事業

事業リーダー: フィリピン支援: 諏訪真衣子(大1)/ インド支援・モンゴル・その他: 中島早苗

支援事業地: フィリピン、インド、モンゴル、その他 FTC カナダを通してアフリカ(中国・ケニア)など

<フィリピン支援事業>

FTCJ では、3つのフィリピンのパートナー団体を通じて支援事業を実施しました。パートナー団体は次の通り

1. プレダ基金(PREDA Foundation Inc.)

プレダ基金はフィリピン・オロンガポ市にある NGO で性的虐待や刑務所から子どもを保護し支援するなどしています。団体名の PREDA は、Peoples Recovery Empowerment and Development Assistance の略で「人々の回復や発展の支援」という意味です。1974 年アイルランド人のシェイ・カレン神父とフィリピン人のヘルモソ夫妻によって設立され「子どもや女性、貧困層の人々を守る」という使命を掲げて活動しています。貧困層の自立のためフェアトレード事業も行っています。ノーベル平和賞に過去 2 回ノミネートされるなど世界的に評価されています。

2. タタグ(TATAG)

TATAG は(Tayo Ang Tinig At Gabay)の略でフィリピン語で「私たち自身が声であり道標である」という意味。フィリピン・オロンガポ市を拠点に路上で働く子どもへのワークショップ(ストリートエジュケーション)やその他教育支援、ストリートエジュケーター育成、貧困地域への自立支援と幼児教育を行っています。1994 年に元ストリートチルドレンの経験を持つビル・アバイガル氏によって設立。子どもの力を引き出し、子ども自身が声をあげられる社会を目指し活動しています。

3. Consortium of Community Initiatives on Education for Peace and Development Inc..(平和と開発のための教育推進地域団体協議会)

いくつかの NGO が加盟してネットワークを作って運営されている組織。

ミンダナオ島の子どもと女性の自立のための支援団体。いくつかの事業の中で、紛争被害にあった子どもへの心と体のケアや教育支援事業に FTCJ では応援しています。

事業名	事業内容	実施日	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
プレダ基金支援	プレダ基金で保護されている子ども(少女・少年あわせ約 120 人)が学校に行ったり、野外活動に参加するための移動に使う大型車(バン)の購入のために資金調達をし支援を実施した。また、プレダ基金が販売するフェアトレード商品を購入し貧困層の自立への支援を行った。助成: バンの購入一部として「ラッシュジャパン・チャリティボット基金」	通年	プレダに保護された少年・少女 150 人	1107
タタグ支援	手紙を通じて交流しながら働く子どもを支援する制度「文通プロジェクト」を設置・運営した。それら集った資金は、働く子どもへの教育支援、ストリートエジュケーター養成、働く子どもへの栄養強化プログラムの実施事業費のために使われました。	通年	路上で働く子ども、および貧困層の子ども 約 100 人	174
ミンダナオ支援	フィリピンの南にあるミンダナオ島では、いくつかの反政府武装グループと政府軍の間で紛争が起きており、それによって子どもたちが殺傷されたり、家族を失ったり住む場所を追われるなど犠牲となっています。そこで、FTCJ は紛争地域の子どもの教育支援のための事業を支援しました。	通年	紛争被害にあった子ども 約 200 人	80
フィリピンスタディーツアー	フィリピン支援事業の状況を把握し、支援先の子どもや児童労働の現状を調査するためにマニラ、オロンガポ、ミンダナオ島を訪問。参加者はスタッフ含め 12 人。鹿児島やアメリカからの参加もあり、今後のネットワーク作りの良いきっかけともなりました。今後はスタディーツアー参加者によるフィリピンの現状を伝えるアドボカシー事業につなげていきます。また、スタディーツアーの実施にあわせて国内で文房具、靴、カバン、絵本などの教材を集めるプロジェクトも実施し、訪問時に参加者が支援物資として現地に届けることができました。	3/15~27	12 人+支援物資受益者は子ども 500 人以上	908

<写真で見る活動報告(09年3月スタディツアー一時撮影)>



←日本のメンバーや支援者が集めた文房具やカバン、タオル類などを寄付しました。子どもたち 120 人を代表して、支援団体(プレダ基金)のスタッフと子ども 3 人が受け取ってくれました。



プレダ基金に寄贈したバン。この車で毎日子どもたちは学校に通ったり、アクティビティに出かけたりと、活用されていました。→

<インド支援事業>

コルカタにある NGO「CCD(FTC インディア)」を通じて支援事業を実施しました。

◆事業目的: インドの貧困のために権利を奪われ、児童労働などの過酷な環境に置かれている子どもが、FTCJ の支援を通して貧困から助け出され、必要以上の空腹や苦痛を感じることなく子どもらしい子ども時代を送り、それぞれの環境で自立して生活するのに十分な教育を受けられるよう支援します。

パートナー団体: Center for Communication and Development(以下 CCD)

<設立経緯・背景>

1978年、現在この団体の理事を務めるスワン・ムーカジ氏と彼の友人アマタバ氏が大学卒業間近だったときに起こった洪水がきっかけとなり CCD が設立された。スワン氏たちは被害を受けた人々を支援するために CCD を設立。市街地から離れた所に医療診療所 (Medical clinic) を作ることから着手し、学校のない村に学校建設事業や収入向上プロジェクト (Economic welfare activities) を開始。このプロジェクトは、貧困家庭にミシンや家畜・原材料を提供し、その使用方法や飼育方法を教え、商品を作り出し、それを売ることによって生計をたて自立できるようにするもの。最後にはミシンや家畜を返してもらい、誰に頼ることもなく村で自立していけるようになることを目的としたシステムである。翌年からは、危険な工場で働く子どもを救出し、家族のもとへ返したり保護施設に預けたりする活動を始めた。

<FTCJ インド支援事業活動報告>

貧困のため家族と一緒に過ごせない子どもや過酷な環境で働いていた子どもを救出し、子どもたちが安心して生活できるような環境を提議する養護施設「マクタニール子どもの家」の運営。現在、2歳～14歳までの子ども 23 人が生活しています。FTCJ の支援によって、施設で生活する子どもが学校に通え、栄養ある食事で健康に暮らしています。具体的には学校に通うために必要な制服や文房具の購入を支援しています。



↑ CCD が運営する養護施設「マクタニール子どもの家」

◆マクタニールの子どもたち(写真はホシノドリームプロジェクトから寄贈されたスポーツ用品で遊ぶ子ども)



＜モンゴル支援事業＞ **図書館設置・運営事業**

FTCJ では 2008 年 9 月 1 日からモンゴルの子ども教育支援事業としてゲルの図書施設の設置と運営を実施しました。

事業名	事業内容	実施日	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
移動図書館設置運営事業	<p>支援事業地: 首都ウランバートル市バヤンズルフ地区 ゲルで暮らす人々が多い UB 市の東に約10KM の車市場近くにある#92 学校のとなり(第 8 地区内)の土地に設置。約 3,000 人の貧困家庭の子ども(16 歳以下)が住んでいる地域で、この地区に住む 16 歳以下の子どもの 4 分の 3 にあたる人数です。 事業目標: 支援事業地周辺に住む子どもが図書館に来ることで、様々な本が通じて想像力を養い、識字能力を高めることができること。ひいては、自身の夢や希望を持ち実現のために歩むことができる。 事業内容: 「ゲル図書施設」を設置しその運営をすることで、モンゴルの厳しい暑さや寒さから身を守り、勉強や交流、安らぐ場所としてゲル施設を機能させます。具体的には、子どもが読書や勉強など知識を深めることができる場所とするため、図書や、文房具、机、いす、スポーツ用品、その他教材などの提供を実施。 担当職員: FTCJ モンゴル支援事業担当 ウルジンジャブ 協力体制: NPO 法人アジアの会 代表 高岡良助氏</p> <p>【現地視察報告と図書館開設の今】 2008 年 8 月 14 日 FTCJ 図書施設開設式 (午前・午後と 2 回実施) →500 人もの子どもが出席し、式典を実施。また、地区役場職員や 92 学校の先生方、関係者も参列した。この時、文房具やスポーツ用品の寄贈、参加者へ水とクッキーの配布、参加者間の交流会、本の披露を式のプロセスとして実施しました。 ※2008 年 8 月中は夏休みで田舎に戻っている子どもが多く、学校が休校のため図書館は開館せず、9 月 1 日から月曜日～金曜日(週 5 日)を正式な開館としました。 成果: 2008年9月より月曜～金曜まで週5日間を開館し運営した結果、毎月80人～140人の子どもが本を読みに来ています。</p>	通年	支援地域に住む 2000 人の子ども	1225

【写真で見る活動報告】

開設式で民謡を披露する子ども



開設式にやってきた子どもたち



本を読む子どもたち



援助物資として渡したスポーツ用品で遊ぶ子どもたち↓

スポーツ用品提供:ホシノドリームプロジェクト



日本で集めた文房具やタオル、おもちゃを配布しました。↓

物資提供:FTCJ 高校生支部 CHPE



<FTC ネットワーク海外支援事業>

FTCインターナショナル(本部カナダ)が担当する中国・ケニア支援事業への協力。

◆中国の農村地域・河北省の Gufubao 地区自立支援に協力しました。



中国の内陸部にある河北省の Gufubao 地区は、7480 人が住みそのうちの30%が子どもです。人々は主に農業に従事していますが非常に貧しく、おとなの非識字率は男性 30%、女性 50%と報告されています。そこで、FTCJ では中国の貧困地域の支援のために飲料水確保・設置事業に対してカナダを通じて支援をしました。また、08年に起きた Sichuan(四川省)大地震の影響を受けた地域の緊急支援として学校修繕事業のために支援しました。その他ケニア貧困農村地域のこどもの教育支援のために協力しました。アフリカや中国四川省大地震のための募金として集まった9万円を FTC カナダを通じて支援しました。

文房具などのスクールキットを子どもに配りました。



(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業報告

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
翻訳事業	事業の運営に係る資料を日・英に翻訳。	通年	—	12人	—
メンバー管理	アクセスのデータを構築し、メンバーや協力者などの個人情報を整理し、管理。有給スタッフを設置し、情報入力を図れたが、メンバー数増加に伴い仕事量が増えるので人材や経費の確保がより必要である。	通年	東京事務所	5人	570
問い合わせ対応	eメール、電話、FAX、郵送にて事務局に届く問合せや連絡に対応。対応例：事務所訪問、出張講演調整、教材や物販の注文、団体など組織からのアンケートへ返答、子ども、大学生、社会人からの質問への返答、メンバー希望、団体への質問への返答など	通年	東京事務所、大阪連絡所	5人	338
その他事務局の運営・管理	事業を円滑に実施するための事務局の運営とその管理。(会計や資料作成、印刷など)	通年	事務所	—	493
その他	事務所管理、什器管理など	通年	事務所	5人	596

＜配信記事・団体紹介一覧＞メディアでの報道や他団体の機関紙や書籍での活動紹介、メンバーによる寄稿一覧：多くのプレス関係者や団体で活動をアピールする機会を頂きました、ありがとうございます。(10件以上)

記事配信媒体名	時期	内容
人権タイムス 機関紙	2回	事務局長中島早苗による世界の権利を奪われた子どもの現状やFTCJの活動の取り組みについての原稿が定期掲載されました。
朝日新聞	9月21日	静岡で活動する高校生メンバー瀬川愛葵さんと加藤学園のモンゴル支援事業への取り組みが紹介されました。
中学公民教科書	ビジュアル公民 2008	P103 に子ども兵士や教育を受けられない子どもについての情報を提供しました。(団体の名前も掲載)
高校家庭科教科書	2009 生活学 Navi	FTCJの活動が紹介されました。
「世界商品と子供の奴隷」ミネルヴァ書房 下山晃 著	2009年3月出版	児童労働に対するFTCJの活動や代表理事・伴野保志について紹介されました。
読売新聞 静岡	1月1日 朝刊	静岡で活動する高校生メンバー瀬川愛葵さんの活動やモンゴル支援事業について紹介されました。
日本国際飢餓対策機構 機関紙	2009年3月	児童労働についての記事で写真提供をしました。
NHK教育テレビ ティーンズTV 地球データマップ「世界の貧しさのためにできること」	10月、11月(再放送)	どうして貧しい国と豊かな国があり、格差があるのか？植民地からつながる現状をわかりやすく伝え、貧しさとは何かについて紹介し、同時にODAなど、いま私たちに何ができるのかのヒントの部分でFTCJのフィリピンスタツアの様子や活動紹介がされました。
「海外フィールドワーク フィリピン報告書」文京学院大学 外国語学部 国際協力特講 作成	2008年3月	文京学院大学の堀内教授のゼミ生のグループのフィリピン・フィールドワークに同行した事務局長中島早苗が寄稿しました。
その他		ネット配信による情報で紹介されるなどしました。

以上